

ヴュルツブルグ大学を訪問しました

本学は、ドイツのヴュルツブルグ大学と研究・教育の両面で交流を進めており、今後の学術連携の発展を目的として、2025年10月27日(月)から30日(木)にかけて同大学を訪問しました。本学からは、池松医学部長、国際・地域精神学教室の小澤教授・楠本先生、統合脳神経学教室の増井教授、学務課の井上主任が参加しました。

訪問の際には、Neuro-Oncology(脳腫瘍)、Planetary Health(プラネタリーヘルス)、Disaster Medicine(災害医療)の3分野について、施設見学と意見交換を実施し、共同研究の可能性を協議しました。Neuro-Oncology では Prof. Ernestus、Prof. Löhr、Mrs. Barbara Moll、Prof. Takahiro Higuchi、Prof. Andreas Buck らと討議し、研究紹介(10~15分)を踏まえた協力の方向性を確認しました。

Planetary Health では CHARM-EU の取り組み紹介を受け、環境と医学を横断する学際的連携の可能性を共有しました。Disaster Medicine では核医学部門にて、災害対応システムや救急医療体制に関する情報交換を行いました。

また、国際オフィスとの実務会議を通じて、学生交流・渡航調整・受入手続きの流れを確認し、大学院・研究センター(CHFC、RVZ)の視察により、大学院教育および研究者交流の方向性を把握しました。さらに、歓迎式や大学紹介の場において学部長レベルで将来的な研究・教育協力の方向性を意見交換し、市内ツアー・懇親会を通じて教員・事務職員間の関係性を深めました。

今回の訪問を契機として、プラネタリーヘルスおよびグローバルリスクに関する協議も進めていく予定であり、教育・研究・学生交流を含む段階的連携の制度化(CHARM-EU との接続を含む)について検討を進めてまいります。

今後もヴュルツブルグ大学との学生交流および研究交流をさらに促進し、国際的な学術ネットワークの強化を図ってまいります。



集合写真の氏名:(左から)Barbara Mollさん、Jürgen Deckert 教授、増井 憲太 教授、小澤 寛樹 教授、楠本 優子 先生、井上 一 主任、Matthias Frosch 教授、Andreas Buck 教授